

25/5/15 名古屋市議会経済水道委員会（松雄副市長分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：それではただいまより、経済水道委員会を再開をいたします。

みつなか美由紀（共産・緑区）：先ほどの私の発言の中に不適切な言い回しがあったということをお詫びして、該当部分を削除していただきたいと思います。正副委員長さんにおかれましてはよろしくご審議をいただきたいと思います。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：ただいまですね、みつなか委員さんの方から委員会記録に関するご発言がございましたが、議事録の削除を求める趣旨でお間違いはないでしょうか。

それではこの件に関しましては、正副委員長にご一任をいただきたいと存じますので、よろしく願いをいたします。

それでは休憩前にご要求のありました、松雄副市長の出席につきまして、正副委員長にて協議をいたしました結果、松雄副市長にはご出席をいただいております。それでは、副長に対する質疑を含め、質疑等があればお許しをいたします。

浅井正仁（自民・中川区）：副市長さん、どうもお忙しい中をありがとうございます。もう副市長とは局長時代から長いこと、いろいろ議論を交わしてきた中において、今回この総括というところでももちろん副市長も目を通されたと思います。率直にこの総括どう思われましたか。

松雄副市長：最初に当該年度の最終の委員会にも関わらず、こうした私の所感の名古屋城のバリアフリーに関する、あるいは天守閣の整備事業の進め方に対する総括をお願いをしてみると、そういうこと自体が大変申し訳ないというふうに思っているわけでございます。今回は総括を進めるに当たりましては、もちろんきっかけになりましたのが市民討論会における差別発言ではございましたけれども、できるだけわかる範囲内で過去に遡って名古屋城の問題について何がいけなかったのかということをしっかりやっぱりやろうというようなことで、2年間かかったわけでありまして、局にもお願いをいたしましてこうした場を設けていただいているということでございますので、私は一定局の努力に対しては評価をしたいというふうに思っているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：で、この内容これで十分なのか完璧だと思うのか、それともまだ足りん。

僕はなかなかスッキリしんとさっきも言ったんだけど、副市長はどう。

松雄副市長：委員会のいろいろなやり取りについては私も今まで聞いておりまして、出席させていただいております。

もちろん少し足りない部分はあると思いますけれども、一定の取りまとめができたのではないかなというふうにて思っております。もちろん２年前に私どもが引き起こしてしまいました、行政としてはあってはならない市民討論会による差別発言があったということについては十分反省をし、ここに書いたような再発防止策をしっかりとやるということが極めて重要であるかと思っておりますけれども、一定取りまとめができたのではないかなというふうに副市長としては認識をいたしております。

浅井正仁（自民・中川区）：僕もこの総括結構評価してんだけど、今副市長が言われた足りない部分っていうのは何かな。

松雄副市長：私は今回の報告にあたりまして、一定の原因、調査、そして何が問題になって何を改善をしていく必要があるかっていうことは取りまとめをさせていただきましたので、これからはここに書いたことが本当に実行をし、そして一番障害者の方々にご迷惑をかけ人権という根幹のところを犯してしまいましたので、そこをやはり丁寧にほぐしていく、実行していくということが今は一番大事じゃないかなというふうに思っているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：この中で先ほど局の方にも聞いたんだけど、数々の課題が示されていると思います。所管の副市長さんとして何が一番の問題であったのか教えてください。

松雄副市長：当該委員会でもご議論があったというふうに思いますけど、私も局長になったときに一番最初に引き継ぎを受けたことが、この河村市長からの指示書でございました。

ここに具体的な復元整備計画を速やかに策定すること、そして全責任は私が取るというような内容、そして私ももう一つの局長になるとき、あるいは副市長になるときにできなければ切腹しろというぐらいの強い意向をやっぱりいただきましたので、ここは私としてもやっぱり何とか道筋をつけたいとしなくちゃいけないとことがやっぱり根本のところにあったと思いますので、どうしてもスケジュールは頭に、念頭に置く。無理を重ねることが今回の問題の一番の大きなところだったかなというふうに振り返ってみまして考えているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：指示書と切腹しろによって、スケジュールということは、河村市長の強引さということなのかな。

松雄副市長：私は先回の合同委員会にもご審議をご質問いただいたわけでありましてけれども、ある面で無理を重ねた部分もあったというような答弁をさせていただきました。

河村市長が全て悪いわけではなくて、私どもどうしてもこの木造復元については実現をしたいというようなことがありましたけれども、やっぱり最後は市長との関係をどうするかということで、私も一番悩んだのは職員でありますけれども、そうした葛藤の中でどうしてもスケジュールということを頭の隅からは置けないということがあったことが、やはりあの市民討論会のことを思い出してもそういうことだったのかなというふうに感じているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：今、市長との関係、職員のこともありますがと言ったけども、もうちょっとそこを丁寧に教えてもらえんかなあ。

松雄副市長：私は局長に就任いたしましたときに、市長からはオリンピックまでに必ず実現してほしいというような話を頂戴いたしました。今回の問題の原点になりましたが、確か令和元年の6月市会だというふうに思っておりますけれども、そこで補正予算を出しました。

でも議会の皆様からのご質問に対して的確な答弁ができない、つまりスケジュールありきのやり方であってはなかなか答弁ができないというようなことが根本にはありまして、市長にはスケジュールだけを考えているような整備はできませんと、できないというようなことを申し上げてきました。

やっぱり丁寧にやる必要があるということでありましたけれども、常にスケジュール、スピード感っていうことが根底にはありましたので、その都度やはり市長ともやり取りをし激論を交わし、ときには喧嘩もすることもありましたけれども、そのスケジュールの厳しさというのはあつというふうに思います。職員もそれを気にしながら無理を重ねたのではないかとふうに感じております。

浅井正仁（自民・中川区）：要はスケジュールなんだけど、8月に合わせろと言ったのは副市長だね。そこが納得いかんだけど、そこは何で。

松雄副市長：そこはおっしゃる通りでございまして、スケジュールのありきではできないとやはり丁寧にやっていくということが一方ではありましたが、石垣の保存方針も一定まとめ、復元原案も一定まとめ、あとバリアフリーの問題というようなところまで来ましたので、最後、私の中でもスケジュールが出てしまったと、スケジュールありきで文科省とも調整をしておりまして、スケジュールに戻ってしまう。十分な検討せずに市民討論会に臨んでしまったというのがやっぱり根本の原因だというふうに思っております、今、私自身も深く反省をしているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：やっぱりスケジュールっていうのだけど、それは市長が早くやれって言うから、そうなったという理解でいいですか。

松雄副市長：もちろん市長が早くやれっていうのは非常に私どもとしても重く受け止めておりました。

ただ市民の皆様の中にもできるだけ早く木造の復元を見たいというような方も、私もいろいろ聞きましたので、そうした声に何とか早く応えたいということは、私どもの方にもありましたので。でも最終的には何度も申し上げましたように早く、スケジュールというようにことに立ち戻ってしまったということは否めない事実です。

浅井正仁（自民・中川区）：でも職員は説明会２年かけると直訴したんだよね、本会議で聞いたんだな。そしたら副市長は覚えてないといわれた。職員は２年かけてバリアフリーを説明したいと言ったにもかかわらず、副市長の心変わりだったよねという文面が、中で何をそんなに急ぐ必要があったんだろう、職員の声は聞かなかったんだろうか。

過去にも副市長にはいろいろと、今となってはいい思い出がたくさんあって、石垣委員の人には辞めてもらうだとか、それからうちの控え室で私と横井先生の前で大物政治家使ったんですよとか、いろいろ思い出がたくさんあるんだけど、最後はこないだの連合審査会があったんだけど、その中で自分の身の行動っていうのかな振る舞いかな今どう思ってるのか、ごめんねきついこと言って。

松雄副市長：委員が冒頭おっしゃられました資料、職員はあと２年はどうしても欲しいと、バリアフリーのも片付けるためにはといったような進言があったという本会議で資料も先生の方からご提示がありましたけども、本当に私は記憶がなくて、むしろ当時の折戸局長が引退のところで、何とか当該年度中にまとめたいというようなことを２度発言をしておりますので、そこを重く見たというようなことでございまして、局長の意に反することはできないと顧みたととしても、そういうふうに職員には申し上げたというふうに思っております。

それから浅井先生とは今おっしゃられたようにいろんなことがございましたし、数々のご迷惑をかけました。

そして極めつけはこの前の問題でもありましたように条例違反といったようなことをマスコミの前でも申し上げましたし、本会議でも不適切な発言をいたしました。本当にこの場をお詫びして許していただけるかどうかわかりませんが、深くお詫びをしたいというふうに思っております、これからはよくご意見を頂戴をしながら、慎重に対応していきたいというふうに思っているところでございます。自戒をいたしております。

浅井正仁（自民・中川区）：このスケジュールありきだとか、これを読む限り副市長は市長を、それはそうかもしれないね仕えるものとしては、でもちょっと市長に忤度しすぎだったんじゃないのかなと思うんだけど、どうですか。

松雄副市長：名古屋城の問題に関しましては、市長とも本当によく喧嘩もいたしましたし、できないことはできないというようなことも何度も何度も申し上げたところもございましたが、でもやっぱり、僕も役人でございますし、副市長という立場を仰せつかっててそんなときの理由が、何とか名古屋城をしてほしい、道筋をつけてほしいという特命の特命を受けておりましたので、忤度があったのではないかと言われれば、そういう面もあったと率直に申し上げたいというふうに思っております。

浅井正仁（自民・中川区）：市民討論会、それから９月の本会議で取り上げた例の合意文章いろいろね、障害者の方にもご迷惑かけたと思うんで、副市長、先ほど佐治局長は障害者の方に謝罪なのか反省なのか、いろいろお話をされてきたと言われた。副市長、あなたはどのようなふうに臨むのか教えてください。

松雄副市長：先ほどの局長が昨日でありましたでしょうか、障害者の方に謝罪をされたということを答弁されたと聞いておりますけれども、当然私もそれから市長もさらに局長の上でございますので、何とか場を見つけて謝罪をさせていただいて、今回の報告書にあるようなこれからの丁寧な進め方についても市が責任を持ってやりたいとについては、私も機会があれば申し上げたいというふうに思っているところでございます。

さらに私は観光文化交流局の所管の副市長でございますけれども、例えば交通局の所管の副市長、それから緑政土木の所管の副市長、教育委員会の副市長でございますので、少なくとも私が所管する局に関しましては、障害者の方がさらによりよいような暮らしができるような取り組みを全力を挙げてやってまいりたいというふうに思っているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：副市長、相手があることなので、どのようなふうに行動されるかはよく皆さんで話し合って。最後にするんだけど今日も田中議長さんの方からパワハラの結果が出てないのにこの総括、意味あるのかなって、うちの沢田委員も言われたんだけど。僕もその通りかなと思うで、河村市長と、副市長が当事者なんだけど、そこに上がること自体が僕はどうなのかなと思う。そのことについてどう思うのか。

松雄副市長：ご指摘をいただきましたように検証委員会の最終報告書に、市長や所管副市長の言動をパワーハラスメントとを感じる職員が生じるほどに関係者間の円滑なコミュニケーションがとれていなかった時期も生まれているというような記載をされておりますので、パワハラがあったかどうかは検証委員会の方で最終的にはご判断をされることかと思っておりますけれども、こうしたことを書かれること自体が私の不徳の致すところでありまして、言動には十分注意しながらこれからの職員と向き合っていきたい思っております。

浅井正仁（自民・中川区）：これ以上のこと聞くこともないんだけどね。その過去を振り返るとどうなんだろうっていうところも多々あると思う。僕もカチンってきたことは多々ある。で、今現実に名古屋城が閉まっていて、もうすぐ10年ぐらい経つ。未だにめども立っていないそのことについてで、特命、特命というならば、どう思うのか。

松雄副市長：私の責任は大変重いというふうに思っております。

特命で受けたにもかかわらずいろんな問題が生じ、今回も2年間も止まってなってしまっているというようなことに対しては、大変責任重く受けておるところでありまして、今は何とかの総括をして前に進めたいというふうに思っておりますけれども、今回過去を振り返りながら問題点を把握できましたので、自分としてはどういうふうにしていくかということについては今も考えておりますけれども、これからは副市長としての責任どういうふうにするかといったことについては、考えていきたいという以上です。

小出昭司（自民・中村区）：副市長、お疲れ様です。

この10年間ぐらい、特に浅井委員、名古屋市民のために、決して木造化を反対してるわけでもなく一刻も良い形で実現できるように様々な指摘をされたりご意見をされてきて、今日に至ってると。

そんな中において、こういうような状態、こういうような総括をせざるを得なくてはならないような状況になった点において、松雄副市長、大変責任を感じてらっしゃるというような言葉もいただきました。しかしながら松雄副市長だけの責任では当然なくてですね、それに関わる議会にも一定の責任はありますし、様々な方々において責任もあると思うんですね。様々に関わった人たちに責任あると思います。

そんな中において、今その総括で足りない点というような中において、そのスケジュールありきで、市長がスケジュールありきで強引に進めてきたことがあるというようなことを言われたんですが、その辺りにおいて私もこれがあのやっぱり全ての様様な出来事の中の本当に根源的なこと、それによって全ての歯車が狂ってきたというような気がするんですが、再度そのことに関して、これ全ての根源がそこにある、市長のスケジュールありきで強引に進めてきたことが原因だというようなことにおいてはどういうふうに思われますか。

松雄副市長：もちろん私も副市長でございますので、市長を支え市長の政策を実現するという課題、責務がございますので、その際にやはり職員との間、市長との間を取り持つと調整をしていくというのが私の役割でありますけれども、そこがうまくできなかった。結局、職員の皆さんの葛藤が生じ、あるいは市長の言動がパワハラだと、そして2年間も止まっているということについてはやっぱり大いに反省をしていかなくちゃいけないとふうに思っております、市長に全てを責任を押し付けるっていうわけには毛頭ありませんけども、私の至らないところもありますけれども、でもやっぱり河村さんがこの木造復元を何とかしたいと、ような強い思いを現実私ども受け止めたので、受け止めて今までやっ

てまいりましたので、そこをどういうふうにこれから調整をしていきながら、職員を一枚岩の心にして進んでいくのかということは、私に課せられた大きな課題でございますので、私が先頭に立ってこれからやっていくっていう答弁はもちろん今はできませんけども、できましたらもう一回しっかりやっていくと、しっかり行政の役割を果たしていくということに努めることができるならば、私としては大変幸いだなと思っております。

小出昭司（自民・中村区）：ちょっと質問に答えていただいてないんですけど、要は与えた影響ということですよ。

こういうような状況になった与えた影響において、もちろん忖度があったりいろんなことがあったり、職員に対しての対応のこともあったりしたかもわかりませんが、その根源は河村市長がときの市長がスケジュールありきで強引に物事と進めたということによって、そこから副市長の忖度が始まり、職員の苦悩が始まり、様々な問題が始まったんじゃないですかというようなことを聞いているんですけど。

松雄副市長：指示書で全責任は私が取るというような指示書がありましたので、それは極めてやっぱり重かったっていうふうに思っております、そこが石垣を一時期停止をし天守閣ありきで進めてきたいというようなこともいろいろありましたので、そこは広沢市長に代わりましたので、いいきっかけとして一枚岩でやっていきたいというふうに思っております。

小出昭司（自民・中村区）：言いにくいのかどうかわかりませんが、先ほども言われたので、ここに足りない部分というところで、そのスケジュールありきで強引に進めてきたというようなところで言われたので、私もそういうことですねということで確認を取ってるわけなんですけど。であれば、これ原因と整理と、4の原因の整理とまとめのですね、イ事業全体に影響を与えたものというどんなところに、しっかりそのことを明記をさせていただかないといかんじゃないですかこれね、どう思われますか。

松雄副市長：この報告書は、一般として答弁もありやはり市長の強い思いに対してどういうふうに答えていくのかといったことが根本にありましたので、そこは結構丁寧にこの報告書の中には総括の報告書の中に含めているというふうに思います。

そして市長と副市長とそれから職員との間の共通の基本的な考え方も今までなかったものですから、それはポリシーというか形で何か問題があったらそこに戻ろうといったことも明記をさせていただきましたので、委員のおっしゃっていらっしゃることは十分この総括の中で含めたつもりでございます。

小出昭司（自民・中村区）：これで十分ですかね、スケジュール優先のところを見ると、スケジュールを優先した事業の進め方であったことから竣工時期を度々変更することなど混乱を来すとともに必要な調査検討が不足するということになった。これはなんでこうな

ったかというような原因、要は結果と原因の関係性なのでしっかりと原因を書かないことには、次今言われたような、今後こういう良くない結果を産まないようにするというようなことのために原因をはっきりしていくことって大事じゃないですか。だからこそそういうことをしっかりと忖度することなく、しっかりと書き入れるべきじゃないですかね。忖度する必要性はないですよ。それで皆さん苦しんだじゃないですか。はっきり書いて欲しいです、僕は。

松雄副市長：もちろん河村市長の強い意向っていうのは大前提でありますので、それに含めて僕らも動いてきましたけど、全てが河村さんのせいかというところとやっぱりそうではなくて、前副市長の責任も重いという答弁をさせていただいておりますので、やっぱりこの複合的に本来の行政として進めるようなところが進めて来ることができなかったということがありますので、多分職員の認識もそうですけど、全て河村さんのせいだというふうには認識をいたしていないということでございます。

小出昭司（自民・中村区）：そんなことは当たり前のことで、組織のトップですよ。トップの責任は明確にしないといけないですよ。企業だってそうじゃないですか。だからトップとしての責任のもとに、その方も動いてらっしゃったわけですから、河村市長もそれにその指示を受けて皆さん動いたわけですから、河村さんがどういう指示をされたというふうなことからしてそれが原因か否かどうかわかりませんよ。でも今おっしゃっているのはそれが原因でこういう結果になったということをおっしゃっているわけですから、だからそこはきちっと明記した方がいいんじゃないですかと。なぜ書けないのかわからないんです。だってそれが原因ですもん。

松雄副市長：もちろんそこはありますけども、やっぱり河村さんのただそれだけで、これだけ大きなことがずっと要するに起こってきたわけでもありません。私ども行政としてです、行政としてやっぱりいろいろなことが決められなかったっていうこともありますし、市長に進言をしてもやっぱり最終的に市長の言葉を信じていろんなことをやってきたということもありますので、やっぱりそこは複合的にやらないと行政の責任も果たせないというふうに思っておりますので、そこはご理解いただけかなあというふうに思っております。

小出昭司（自民・中村区）：申し訳ないですけど、ちょっと理解ができません。やっぱりそうそうであれば第三者の方に総括をある意味その客観的な意見を入れてもらうとかですね、そういうようなことをせざるを得なくなっちゃいますよこれ、自分たちで自分たちを総括してるわけですから、そうですよね。だから自分たちだから、自分たちも責任あるのでそんなようなことは書けないんだっていうような理屈だと思うんですよ。だからここに個人名がいろいろ書いてある云々とかってことはありませんが、けどやっぱりトップの責任は非常に重いんじゃないですかね。トップの責任は重いですよ。だから



そこを外した総括で僕はいいかなというふうに思いますが、いいですこれ以上、結構ですが、私はこのこの総括の中でその原因というようなところ、事業全体に与えた影響を与えたものということにおける原因という部分はすごく重要なことで、そこをしっかりと検証をしてそして次スタートしていくっていうことの重要性をしっかりと認識をしていただきたいなということにしておきます。

浅井正仁（自民・中川区）：ちょっと副市長さん聞くの忘れたんだけど、今日、指示書っていう言葉を何回も使ってるもんで、前回、市長さん最後にここ来てもらっていろいろお話をさせてもらったんですよ。

そんときに市長さんにこの指示書のあり方聞いたときに、市長さんは書けって言われたんで書いた、そんなレベルの話をされた。まずそれを聞いてそれを聞くと、副市長の指示書と、河村市長の指示書の重みっていうのかな。全然違うと思うんだよね、どう思われた。

松雄副市長：確か私も同席をさせていただいておったんじゃないかなというふうには思っておりますけれども、（してない）そうですか。それを聞きまして私も含めて職員も含めて指示書をものすごく重く受け止めて、我々も実施してまいりましたので、その程度かと率直に思いました。

もっと重たいものであって、それに基づいて職員もいろいろ葛藤しながら参りましたので、それはちょっとないねいうふうに率直に感じました。

浅井正仁（自民・中川区）：そうだよね。僕もそれを言いました。そんな軽いものかと。だったら書かんときゃええがや、全責任はある。全て私が取るっていう最後の文言。でも法律的に責任取る。違う。職員で分担しながら、それぞれやってきてますかこういうことは、だけど相対的には市長の責任だわなということは間違いないですよ。そういうなんかようわからんだけど、要は全責任は取らんみたいなことを言われた、言われたよねそれを聞いて副市長はどう思ったのか、

松雄副市長：先ほど局長がこうした指示書は見たことないといったような答弁をしたというふうに思いますけれども、私もこういう指示書なるものを河村市長の名前で書いた文章を見たことはありませんので、ものすごくやっぱり職員っていうのは私も含めて重く受けとめました。

でも確か中日新聞さんか何かに先生とのやり取りが載ったのかちょっと忘れちゃったけども、そのような感じで、繰り返しになりますけれどもやっぱり指示書を出すということはそれだけものすごく重い、特に特命でこれは絶対にやらなくちゃいけないっていうぐらいふうに職員は受け止めますので、ちょっとそういう本当にそういうふうにおっしゃってるんですけども極めて残念だと思うんです。

浅井正仁（自民・中川区）：だから総括にそういうことを書かなきゃ。指示書が始まりなんですよ。

当時の局長たちはああだこうだ言って、名古屋市の保存計画か耐震、それから技術提案方式それに代わるものは何かってこの指示書でしょ。そういうのが抜けてんだよこれ、小出委員もそれを多分言われたと思うんだよね。

今副市長が言われたことはねこん中に明記してほしいな、どうだろう。

局長：委員会資料の方にはちょっと掲載していない、この本編の方の例えば27ページの辺りに聞き取りにより把握した内容というところがございますけど、そこにどういう経緯で指示書が出てきたかというところにつきましては載っておりますので、

浅井正仁（自民・中川区）：違う違う指示書が出てきたわけじゃなくて、その委員会のやり取りを聞いた今の副市長の言葉だとかね、そういうのも入れてほしいだよね。だってそれが事実でしょ。全責任を私がとると言っとったのはとらんって言い出したり、書きゃええでしょうみたいなレベル。これ総括じゃないの。それが反省に繋がっていくんじゃないのかなと思うんだけど、ということを言わさしていただきたいと思います。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：他に、副市長さんへの質疑はよろしいですか。では他にないようでありますので、これで副市長さんに対する質疑は終了いたしたいと思います。

続けて質疑があれば、続けてどうぞ。

浅井正仁（自民・中川区）：副市長さんのご意見も聞きましたし、ちょっと市長さんにも総括に向けてお話を聞きたいと思います。

同じような内容にはなると思うんですけどもそれぞれの考えがあると思いますんで、市長さんにこの委員出席を委員長さんにお取り計らいをお願いしたいと思います。

委員長 北野よしはる（自民・守山区）：ただいま浅井委員の方から、広沢市長に対する出席のご要求がありました。

本件につきましてはその取り扱いの方を正副一任にさせていただきたいと存じますのでよろしく願いをいたします。その他、何かこの件につきましてご質疑ありますか。

よろしいですね、一旦暫時休憩をさせていただきたいと思いますので、また後ほどご連絡させていただきます。

暫時休憩します。